

研推だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
R4年5月6日(月)
第 1 号

6年 学級会「1年生と仲良くなろう集会をしよう」について話し合い活動を行いました。

5月20日(金)に第1回校内研究授業を行いました。議題は、「1年生と仲良くなろう集会をしよう」です。1年生が入学して1ヶ月が経ち、6年生は、入学当初から毎日お手伝いを通し、1年生と関わってきました。関わる中で、「もっと1年生と交流をして仲良くなることで、1年生から話しかけやすくなったり、自分たちも1年生を助けたりできるようになるのではないか」という思いが芽生え、今回の議題に至りました。

【事前】学級会当日に向けて、事前に行う計画委員会では、司会グループで議題を決定したり、1年生の現状を知るためにインタビューをしたりしました。計画委員会で、今回の提案理由にふさわしい意見を考え、「レンジでチンおにごっこ」「氷おに」「バナナおに」「ドロケイ」の4つに意見を絞りました。

【本時】今回の学級会では、「①何の遊びにするか」「②1年生とより仲良くなるための遊びの工夫」の2点について話し合いをしました。

話し合うこと①では、提案理由にあった意見が活発に出了ました。中には、「1年生がやりたいと言っていた遊びがいいと思います。」と、事前に1年生にとったインタビューをもとにして、1年生の立場や思いを考えている意見も多くありました。司会グループは、司会だけに頼らず、みんなで協力して遊びを「レンジでチンおにごっこ」と「ドロケイ」の2つにスムーズに決めることができました。

話し合うこと②では、①で決まった遊びについて、どんな工夫を加えると1年生とより仲良くなれるかについて話し合いました。「1年生が6年生の全員の名前を知りたいと言っていたので、名前を書いた名札をつけよう。」など、1年生の立場を考えた意見が出されました。実際の場面を想定できているからこそ悩んで、しばし話し合いが止まってしまう場面もありましたが、なんとかしてみんなで決めよう、どの意見も生かせる方法はないかと知恵を絞る姿が見られました。

今回の学級会では、よりよい集会にするために、学級のみんなが1年生の立場や思いを第一に考え、提案理由に沿ってできることを考えることができました。また、自分の意見を言うだけでなく、友達の意見を聞いて、学級としてよりよい意見を生み出していくことができました。

特別活動、とりわけ学級会は、学校の教育課程の中で、唯一子供が主体となって進めてよい時間です。

6年2組は、担任も児童も変わることなく、6年生にもち上がりました。

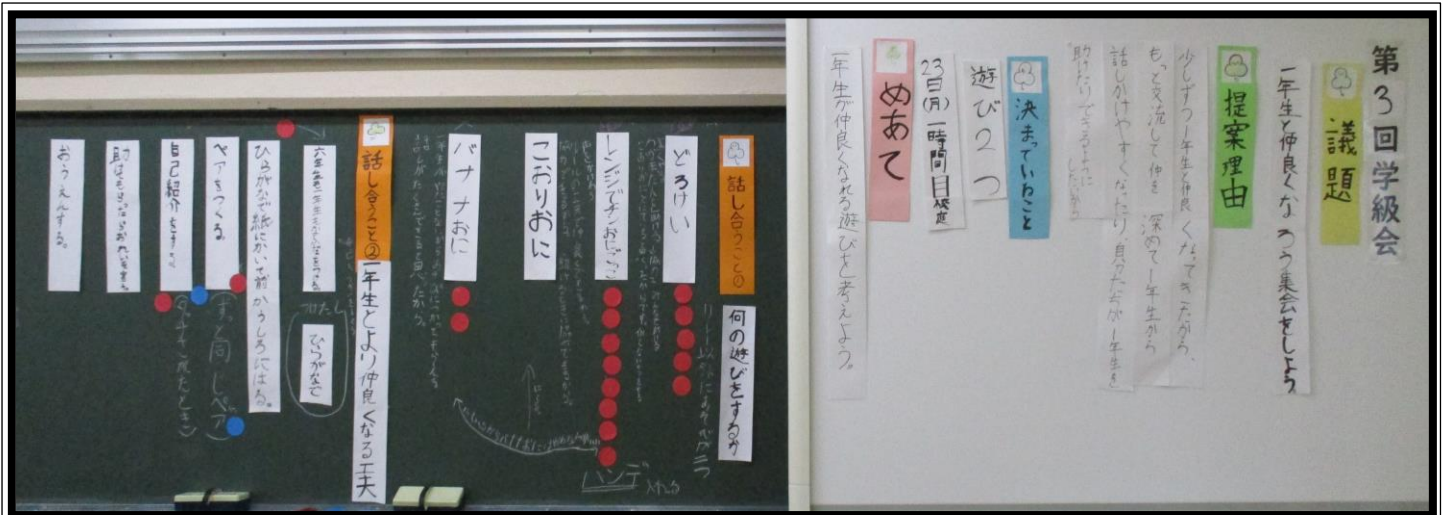
今まで話し合ってきた「話し合うための技能」や「心配り」が十分に発揮された話し合いができる子どもたちに育っています。

学校は、どうしても教師が主導となる場面が多いため、教師に確かめてみないとやっていいのか悪いのか、行動を決められない子どもが少なくありません。しかし、いつも教師に頼って決めてもらっているだけでは、主体性や行動における自身が身につけていきません。一部の子どもの欲求が満たされるだけではなく、クラスや学年全体に気を配り、民主的で誰もが納得できる話し合いのできる集団に育っていくことを心から願っているところです。

話し合ったことは、話し合いだけで終わることなく、しっかり実践に結びついていくことが大切です。6年生が1年生と遊ぶことによって、自分たちの話し合ったことが、意味のあることだったことが分かり、また、次に「何かしてあげたい」という気持ちになることが期待できます。この経験と実践の繰り返しが、話し合うことの大切さや、民主的な感覚を身に付けることにつながるものと考えております。

これからは、他学年においても、同様に研究を進めてまいります。





- ◎児童の発言の後、自然と拍手が出る場面があり、とても温かい学級経営をしていることが伝わってきた。
- ◎「ドロケイがやりたい！」という思いを優先する発言ではなく、1年生と一緒に活動している実際の場面を想起して話し合いを進めていたり、1年生へのアンケート結果に基づいて話合っていたりしている点もよかった。
 - 実際に選んだ活動ができるのか、子どもが場面を想起できていない様子が見られる場合は、話し合いの途中で、一度止めて助言をするべきである。
- ◎学級会の進め方として、「くらべる」と「まとめる」は一連の流れとする。しかし、「まとめる」に入らないと決定してはいけないということではない。
 - 圧倒的に1つに賛成意見が集まっている様子であれば、それを1つ目として決定して良い。
- ◎終末の助言では、話し合いの中で良かったところを児童に聞くことで、互いに認識することができた。そして良かったところを学級全体で褒めあうことができていた。さらに、良いことだけではなく、今後の課題についても話しができていてよかった。
- ▲今回の話し合いでは、児童から出た意見をそのまま列挙していたが、「おにごっこ系」、「走り回らない系」など、分類整理してから出すと、話し合いがしやすい。
 - それができるように、低中学年頃からは、教師主導で分類整理の仕方を考えさせながら学ばせるとよい。
- ▲児童が書いた板書の字が小さくて読みにくいこともあり、字の大きさに配慮することも大切。
 - 賛成意見は赤の短冊、心配なことを青の短冊に書くなどすることで、わかりやすい板書の工夫を行う。
 - 短冊は移動することができるので思考の流れが分かりやすかったり、構造的な板書になったりする。
- ▲児童が相反する意見を出した際、司会がその児童へ「納得しましたか？」と聞くのは良くない。
 - 納得(説得)させるための話し合いを行っているのではないので、別の言葉で確認する方がよい。
 - 〇〇さんの意見に対して、「どうですか？」と意見を促すような質問の仕方にする事で、更に意見が深まる。

授業者の原先生にインタビューしました！

6年生になって、最高学年として異学年と交流することを通して、自分たちのよさや、自分たちの成長を感じてもらいたいと思いました。異学年と関わることで、自分たちが今後も成長して欲しいという願いもあります。今回は1年生のお世話を1か月してきたこともあり、対象を1年生にしました。

集会をやってみて、集会中はどの子達も1年生のことを思いやって行動していたことがよかったです。話し合いで決めた工夫を実践しようと準備を頑張り、当日もその成果が発揮できていました。終わった後の振り返りでも、1年生と関わってすごくよかったというものが多く、名前を覚えてもらったり、一緒に遊んだりすることで、6年生が今後も色々な場面で1年生を助けたいという気持ちが強くなったと振り返ることができました。

